



オンラインでつながる地域の輪

千葉県立東金特別支援学校

東金市にある東金特別支援学校は、千葉県東部に広がる九十九里平野のほぼ中央に位置しています。本校は、昭和48年に知的障害の子どもを教育する県立養護学校(現特別支援学校)として県内で初めて開校した学校です。

本校の教育活動の特色として、防災教育、オリンピック・パラリンピック教育に取り組んでいます。平成30年に内閣府より「防災功労賞内閣総理大臣賞」また平成31年には東京2020オリンピック・パラリンピック大会組織委員会より、「みんなのスポーツフェスティバル優秀賞」を受賞しました。

本校は平成30年度から県教育委員会より「特別支援学校を拠点とした障害者スポーツ振興事業」の拠点校として指定を受け、3年目となります。その一環として2年前より、地域の方を対象に障害者スポーツの体験会(「オリ・パラ」サマーセッション in 東金)を本校が主催となって開催(共催:東金市教育委員会)しています。本校が主催、東金市と協力し、障害のある人ない人、小学生から高校生、高齢者等さまざまな方が一緒になって障害者スポーツを通して交流を図ることができ、障害者スポーツの普及はもとより、障害者理解、インクルーシブな社会づくりを目的として取り組んでいます。



今年度は、新型コロナウイルス感染防止の観点から毎年のように一斉での体験会は避け、web会議システムを応用し開催しました。オンライン上での開催でしたが、昨年度までの参加者等の口コミの評判から、「今年も参加したい」といった声が多く、約150名もの方に参加していただきました。オンライン上で楽しめるように、オリジナルルールにして、ボッチャに触れ取り組むことで、アプローチの難しさや上手くできた時の達成感等を参加者が体感し、魅力を知っていただける時間となりました。



また、サマーセッションを中心になって運営しているのは「オリ・パラ」推進隊(以下、推進隊)です。推進隊は、校内はもとより、地域にオリンピック・パラリンピックの機運醸成を図り、障害者スポーツの普及を目的に活動している本校児童生徒の組織です。推進隊の発案で、「パラスポクイズ」を作成し、参加者に出題して障害者スポーツをより広く知っていただく機会となりました。

サマーセッションの取組はNHK「首都圏ネットワーク」やチバテレビ「ニュースちば930」特集枠で放映され、東京新聞や千葉日報にも掲載されました。また、県教育委員会HPや千葉県オリンピック・パラリンピック推進局facebook、東金市広報にも取り上げていただき大きな反響を呼びました。

サマーセッションの参加者からは、「障害者スポーツに関するボランティアをしてみたい」「このイベントでパラリンピックへの意識が変わった」等の声が寄せられ、体験を通して、参加者への何かしらの“気づき”につながった機会となりました。

また、参加した私立高校は、ボッチャの魅力を知ったことがきっかけで、コロナ禍で縮小された自校の体育祭の代わりとしてボッチャの大会を開くことにつながりました。

地域の方に東京2020大会に向け機運醸成を図り、障害者スポーツの普及振興とともに障害者理解等を目的に今後もボッチャの大会をメインとしてサマーセッションを継続し、開催していきます。この取組は本校だけでなく、東金市等の自治体と連携して開催し、地域とともに発展するイベントとなるように連携して進めていければと考えています。

来年8月18日(水)は東京2020パラリンピックの千葉県での採火式が自治体ごとに行われます。東金市と連携し、採火式とコラボしてサマーセッションを開催する予定で計画していますので、ぜひご注目ください。